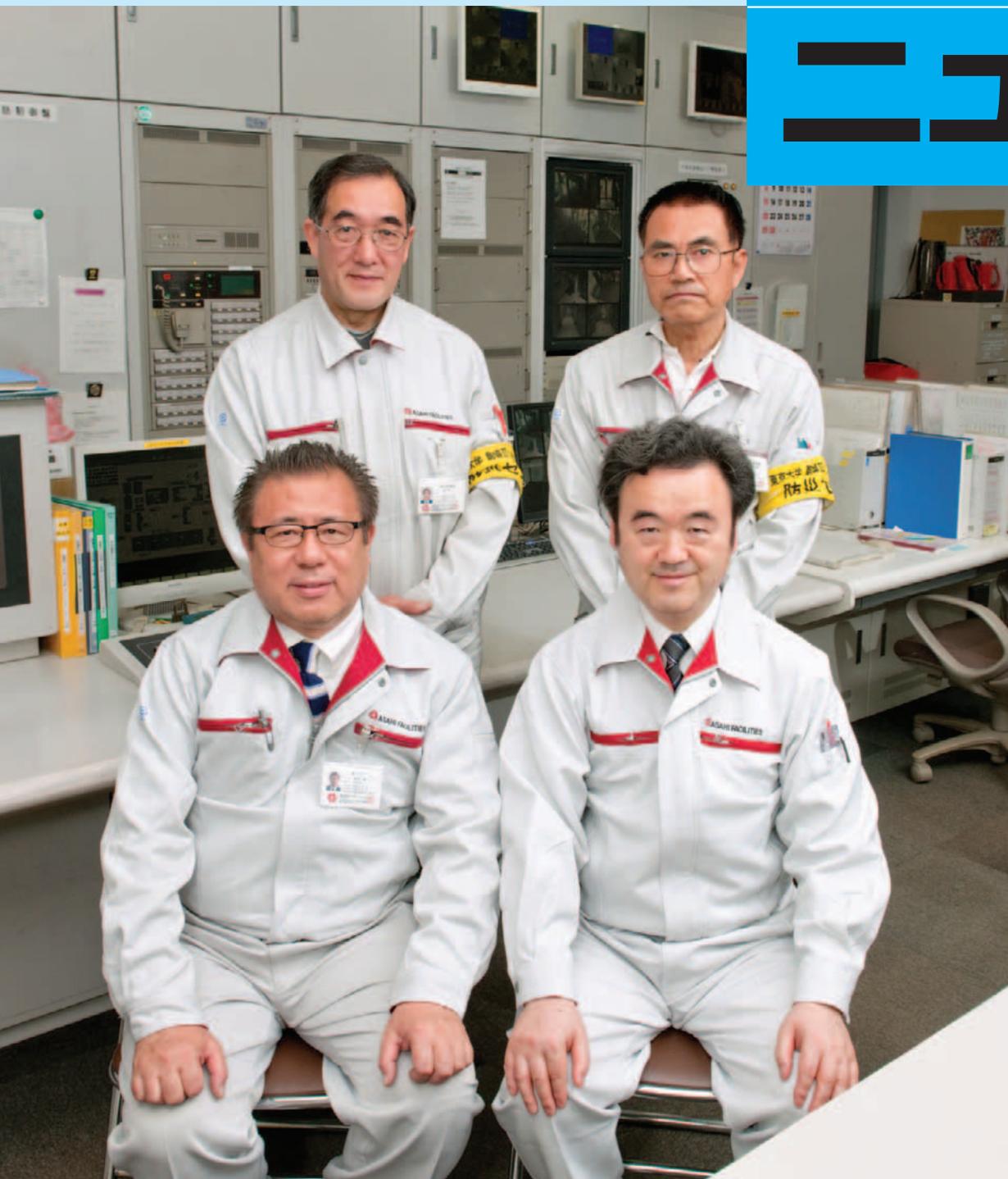


PHOTO 重田琢也

生研 ニュース

IIS NEWS
No.136
2012.6



●防災センター
前列
前総括主任
倉持 隆一 (左)
新総括主任
石澤 猛 (右)
後列
浦辺 明 (左)
池端 勝夫 (右)

IIS
TODAY

普段の厳しい顔を小さな笑顔に変えてご登場いただいたのは、駒場Ⅱリサーチキャンパスの皆さんを事故や災害から護る防災センターの皆様です。数々の警備・警報システムや巡回により、常時二人体制で24時間、私たちの日常を見守ってくださっています。昨年の東日本大震災では、六本木時代も含めて、本所はこれまで経験したことのない地震動を受けました。防災センターの皆様は館内の至る所で鳴る警報への対応と、所員や学生の避難指示に追われました。当時の主任の倉持さんは、「私たちは緊急時にマニュアル通りに動くことの難しさを学びました。発災時には優先順位を常に念頭に置いて落ち着いて行動することが大切です。」とおっしゃられ、経

験を次へ生かす努力も怠っておりません。なお、本号は駒場リサーチキャンパス公開に合わせて発行されますが、防災センターにとっても多くのお客様がいらっしゃるキャンパス公開は特別なイベントです。今年度から主任として着任された石澤さんによると、当日は警備員を増員して所内で事故や怪我のないよう巡回していただくこと。賑やかな会場の陰にはこのような貢献があることを胸に、年に一度のイベントを楽しみたいと思います。

(清田 隆)

池内教授 紫綬褒章を受章



このたび、本所先進モビリティ研究センターの池内克史教授が紫綬褒章を受章されることとなりました。池内教授は人間の視覚機能を計算機上に構築するコンピュータビジョン分野の権威であり、特に画像の生成プロセスを物理学に基づいてモデル化し、この逆モデルを用いてビジョン問題を解く Physics-Based Vision 分野の先駆的研究者の一人です。2次元画像中の陰影やハイライトから3次元データを生成する手法や、物体表面の反射特性を精密にモデル化する研究に取り組み、実物体を計算機の中に3次元モデルとして取り込む Modeling from Reality と呼ばれる

分野を確立しました。近年では、これらの技術を発展させ、有形・無形文化財のデジタルアーカイブ化や解析、展示を目的とした学際的研究分野である e-Heritage を立ち上げ、鎌倉、奈良大仏、アンコール遺跡群バイヨン寺院の3次元モデル化や、会津磐梯山など日本の伝統舞踊を踊るロボットを開発し、考古、芸術、建築学といった様々な分野の研究者とも連携してこの分野の発展に尽力されました。このたびの池内教授の受章をお喜び申し上げるとともに、今後益々のご活躍をお祈り致します。

(先進モビリティ研究センター
大石 岳史)

平成24年度文部科学大臣表彰・若手科学者賞受賞



この度、光栄にも平成24年度文部科学大臣表彰・若手科学者賞をいただくこととなりました。助手として本所にお世話になって以来、荒川泰彦教授とともに進めてきました「半導体アクティブフォトニック結晶に関する研究」を評価いただいたものです。その内容は、フォトニック結晶と呼ばれる光の波長程度の周期構造を利用した

発光素子などの半導体デバイスやその物理に関する研究です。研究を進めるにあたり、ご指導・ご支援頂きました荒川泰彦教授をはじめ、一緒に研究を進めてきた大学院学生や研究員の皆さんには、心より御礼を申し上げます。これを励みに、当該分野の研究を一層深めるとともに、新分野への展開にも積極的に取り組んで行きたいと考えております。また、微力ではありますが、これらの研究活動を通して、本所の発展にも貢献できるよう努力して参ります。引き続きのご指導・ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(情報・エレクトロニクス系部門
岩本 敏)

平成24年度文部科学大臣表彰・若手科学者賞受賞



平成24年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞致しました。ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構において、約5年取り組んできた単一人工原子レーザへの挑戦とその実現について報告致しました。一般的なレーザは極めて多数の光子を放出しますが、単一人工原子レーザは物理系を極限的微小スケールにもってゆき、光子ひとつを数えられるような領域

でレーザ発振を実現しています。固体レーザの物理的微小極限に到達するためには、高品質な人工原子である量子ドットと光の回折限界程度の非常に小さな光共振器を作る必要があります。総合的かつ高い技術力が要求されました。本賞を受賞できましたのは、研究全般に渡りご指導下さいました荒川泰彦教授、岩本敏准教授をはじめ、両研究室およびナノ量子機構メンバーの皆様のお蔭であり、厚く御礼申し上げます。現在、量子融合エレクトロニクスと名付けた新しい分野を開拓中です。この受賞を励みにより一層意欲的に取り組んで参りますので、今後ともご指導、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(マイクロナノメカトロニクス
国際研究センター 野村 政宏)

このたび平成24年度科学技術分野の文部科学大臣表彰による若手科学者賞を受賞いたしました。若手科学者賞は、萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者を対象とした賞で、本年度は90名が受賞しています。私の受賞は、ひとえにみなさまの日頃からの様々なご支援によるものであり、心から誠に感謝しております。さて、受賞対象となった「水の同位体情報を用いた地球水循環システム解明の研究」とは、水や水蒸気の中に必ず含まれる水素と酸素の重い安定同位体を指標に、大気中や陸上での地球規模の水の流れの詳細を明らかにするというものです。本所虫明・沖研究室に修士学生として加わったときからもう10年以上行っている研

究ですが、このような高い評価を受けられることができ、大変に光栄に思うとともに、今後もより一層研鑽を重ねることを誓います。これからもよ

ろしくお願いいたします。

(人間・社会系部門 芳村 圭)



芳村研究室のメンバーとともに。

NExT プログラム入講式

4月6日（金）に社会人新能力構築支援（NExT）プログラムの第2期生の入講式が開催されました。NExTプログラムは、企業の中堅エンジニアの方々に、本所の三つの研究室を自由に選んで3～4ヶ月ずつ滞在中で専門分野の幅を広げるとともに、新しい技術の芽を探索してもらい、次世代の技術イノベーションに

繋がる橋渡しを行うものです。NExTプログラムは東日本大震災の影響で6ヶ月遅れて、昨年10月よりスタートしましたが、第2期を迎えた本年度は、石橋修さん（NEC）、寺田秀さん（三菱化学科学技術研究センター）、中谷誠さん（イシダ）、山崎弘之さん（LIXIL）という意欲あふれる4名の受講生を迎えることができまし

た。入講式は、受講生の方々のほか、所長、受け入れ研究室の教員、NExTプログラム運営委員、サポートの事務の方々などの参加を得て、お互いのNExTプログラムに対する期待や思いを述べながら、和やかに進行了しました。

（情報・エレクトロニクス系部門
平川 一彦）



左より中谷 誠さん、石橋 修さん、寺田 秀さん、山崎弘之さん



生研記者会見報告

3月12日記者会見

飲食物由来の放射線ヨウ素およびセシウムによる
東京都民への曝露量と発がんリスクの推定

人間・社会系部門

沖 大幹教授

「水の知」(サントリー) 総括寄付研究講座

発表

村上道夫特任講師

3月12日(月)、本所An棟において、「飲食物由来の放射性ヨウ素およびセシウムによる東京都民への曝露量と発がんリスクの推定」について記者発表を実施した。

本研究は、本所沖大幹教授と村上道夫特任講師による研究成果であり、地域別・日別、飲食物グループ別の放射性物質濃度、各地域から東京への飲食物の入荷量、各飲食物の平均摂取量から、都民への飲食物由来の放射性ヨウ素および放射性セシウムの曝露量を算出した。

本研究により、東京都民への放射性物質の曝露量を飲食物の種類別に経時的に定量化することができ、事

故後行われた出荷制限および東京郡による乳児へのボトル飲料水配布といった対策による曝露量の削減効果についても推定を行った。さらに、飲食物由来の放射性物質の摂取に伴う発がんリスクの推定を行い、その他の環境汚染物質、自然由来の放射性物質の曝露に伴うリスクや事故や病気による年間死亡者数と比較することで、リスクを分かりやすく提示することができた。

当日は、テレビ、

新聞、雑誌等の記者24名に出席頂き、後日、テレビ、新聞等で本研究成果が大々的に取り上げられた。

(「水の知」(サントリー) 総括寄付講座
中村 晋一郎)



記者会見の様子

3月14日記者会見

量子ドット太陽電池で新技術開発
～世界最高効率18.7%と初のフレキシブル性を達成～

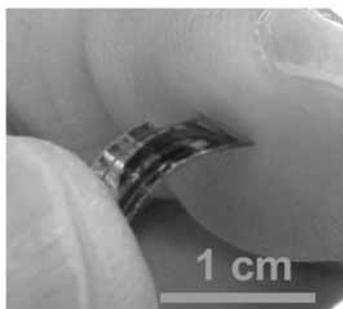
情報・エレクトロニクス系部門

荒川泰彦教授

田辺克明特任准教授

発表

3月14日(水)にナノ量子情報エレクトロニクス研究機構長を兼ねる本所荒川泰彦教授、田辺克明特任准教授が量子ドット太陽電池の最新成果に関する記者発表を行いました。



試作した世界初のフレキシブル
量子ドット太陽電池

シャープとの共同研究による成果で、超高効率光電変換を期待できる量子ドット太陽電池について、無集光で世界最高効率の18.7%(2倍集光時19.4%)の達成と、低温ウエハ融着によるフレキシブル性を初めて実現した成果を明らかにしました。両成果は独立した技術ですが、両者の融合により、将来的に超高効率で安価・フレキシブルな太陽電池というパラダイムシフトを切り開くものと関心を集めました。

量子ドット太陽電池の研究開発は、荒川教授らがグリーン社会実現への寄与を目的に、平成21年度より、新

たな研究課題として、推進してきました。その第一弾として23年4月に、量子ドット太陽電池の限界効率が「従来理論の63%」を塗り替え、「75%まで可能」という新理論を発表しました。折しも23年3月の福島第一原発事故直後の発表で、再生可能エネルギーの1つである太陽光を利用した太陽電池への社会的関心の強さが示されました。今回の報道発表は量子ドット太陽電池の可能性を開く具体的実験成果のマイルストーンとして、多くの媒体にも報道されました。

(情報・エレクトロニクス系部門
荒川研究室 男澤 宏也)

生研記者会見報告

3月26日記者会見

医薬品候補化合物とタンパク質の相互作用解析の
高分解能化に成功

革新的シミュレーション研究センター
加藤千幸教授

立教大学理学部

望月祐志教授

発表

みずほ情報総研(株)

福澤 薫チーフコンサルタント

「文部科学省次世代 IT 基盤構築のための研究開発」(代表者:加藤千幸教授)では【バイオ分子相互作用シミュレーターの研究開発】の下でフラグメント分子軌道(FMO)法の計算システム ABINIT-MP/BioStation の開発整備を進めてきました。今回、立教大学理学部の望月祐志教授(本所研究員)、みずほ情報総研株式会社の福澤薫チーフコンサルタント(本所協力研究員)らの研究グループは、論理的創薬法に適した医薬品候補化合物(リガンド)とタンパク質の相互作用解析の高分解能化を可能とする新規手法を開発し、(独)海洋研究開発機構のスーパーコンピュータ「地

球シミュレータ」を用いて超高速計算することに成功しました。この手法により、リガンドをタンパク質との相互作用部位毎に分割し、タンパク質のアミノ酸残基側も主鎖と側鎖を分離して扱えるようになるため、これまでのリガンド対アミノ酸より高分解の相互作用描像が得られ、リガンドの最適化が効率的に行えるようになります。この手法は論理的創薬に広く適用でき、また薬剤耐性問題や新型ウイルス対策にも有用と考えられます。尚、本研究開発は、神戸大学、国立医薬品食品衛生研究所、日本電気株式会社と連携して行われています。

3月26日(月)に、本研究内容に関する合同記者会見が行われました。まず本所革新的シミュレーション研究センターの加藤教授からプロジェクトの説明が行われ、続いて立教大学の望月教授から技術的な説明、みずほ情報総研の福澤氏よりインフルエンザウイルスタンパク質とタミフルとの相互作用に関する適用事例の紹介が続きました。早朝から記者を集めての会見発表となりましたが、質疑応答では活発な議論が繰り広げられ、参加者の関心の高さが伺えました。

(革新的シミュレーション研究センター
福澤 薫)



生研記者会見報告

4月3日記者会見

ニコン・イメージングサイエンス寄付研究部門の設立

ニコン・イメージングサイエンス寄付研究部門

志村 努特任教授

大木裕史特任教授

発表

ニコン・イメージングサイエンス寄付研究部門が4月1日からスタートしたことに伴い、記者会見が行われました。当日は同部門の志村努特任教授（本所基礎系部門と兼務）の概要説明に続き、新たに着任した大木裕史特任教授による寄付研究部門の目的、狙い、活動計画などの説明が行われました。

この寄付研究部門は、2006年11月から2012年3月まで活動したニコン光工学寄付研究部門を発展的に継承して設置されたものです。その目的は、大学で研究されている先端的な光学と、産業界から求められて

いる製品に結び付いた光学のギャップを埋め、将来光学産業をリードするような人材を育成することにあります。これまでに引き続き、プロのレンズデザイナーによる指導のもと、プロ用の設計ソフトウェアを用いたレンズ設計実習を盛り込んだ特徴ある授業を行い、大学院生に対して産業に直結する光学教育を実施します。また新たな取り組みとして、将

来の日本の光学技術を担う研究者と技術者の交流を活性化させる場を提供し、産学協働により日本の光学産業の世界的競争力を強化していくことを目指します。

(基礎系部門 志村 努)



セバスティアン・ピニェラ・エチェニケ チリ大統領、弥生講堂にて講演 岡部徹教授らチリと関係の深い研究者も講演

去る3月28日（水）午後、チリ共和国のセバスティアン・ピニェラ・エチェニケ大統領が東京大学を訪問され、理学系研究科をはじめとする本所を含めた8部局合同の講演会が弥生講堂一条ホールにおいて開催されました。

講演会には中南米を中心とする15

カ国の在日大使をはじめとして約300名の参加があり、大統領の講演に耳目を傾けました。大統領の講演では、チリと日本をはじめとした世界経済を分析したうえで特に自由貿易と科学技術の重要性を強調され、日本との交流がさらに深まることへの期待を語られました。また、講演終了後、

大学院生らの質問にも大変熱意をもって答えておられました。

大統領の講演の後には、チリと関係の深い研究を進めている3分野の講演

があり、地震研究所の佐竹健治教授、理学系研究科の吉井譲教授とともに本所の岡部徹教授が講演を行いました。岡部教授は「チリにおける非鉄金属産業の紹介～世界有数の銅（・モリブデン）鉱山および製錬所やりチウム、チリ硝石の生産地について～」という題目で、チリを中心とした鉱山の現地調査を行った際の豊富な写真を示しながら講演をされ、わかりやすく巧みな話術に多くの参加者が聞き入りました。講演後の参加者からの質問にも熱心に答えられました。さらに、講演会終了後、弥生講堂アネックスで情報交換交流会も開催されました。

(人事・厚生チーム 中竹 聖也)



チリにおける非鉄金属産業の紹介をする岡部 徹教授

シンポジウム 「近代木造の哀しみ なぜ近代木造は滅びていくのか」

3月26日（月）、本所 An 棟コンベンションホールにて「建造物の総合的保全に関するグループ」主催のシンポジウム「近代木造の哀しみ なぜ近代木造は滅びていくのか」が開催された。

基調講演として、長尾充氏（文化庁文化財部参事官調査官）が日本の伝統木造建築の系譜を時代順に整理した後、文化財保存における維持修理の重要性を解説した。続いて、腰原より木造建築の技術史の中での、近代木造の位置づけをその時代背景、構造技術とあわせて工場、学校などを例示しながら解説を行った。滋賀秀實氏（東京電機大学名誉教授）は、軍艦島における木造中層集合住宅、5

階建ての木造製粉工場の現地調査報告を行った。本所村松教授は、福島県の4階建ての繭蔵の保存と解体を巡って組織された地元グループの事例を紹介し、街の豊かさを市民が再発見し、建物単体の問題から街全体の問題へと各々視点を広げる「まちリテラシー」の向上の重要性を指摘した。

続いて4人の講演者によるパネルディスカッションが展開された。一般人にもその価値が分かりやすい伝統木造建築と異なり、その価値が分かりにくい近代木造建築の保存における問題提起がされるとともに、その目的が単なる図面や写真といった技術の記録ではなく、実際にその空

間を体験することに主眼を置いた保全の必要性が提案された。これに対して、村松教授は近代木造の中でも繭蔵と小学校を区別し、地元の市民からの愛着や使い勝手に大きく異なると指摘した。また、「長い」、「高い」といった単純な言葉から続く、近代木造の価値付け、活用法の提案が今後重要になると提言した。

本シンポジウムは近代木造に関わる制度、構法、類型、組織など多様な課題に展開されたが、万人が共有できる建物の価値付けのための言葉が重要な役割を果たすことが浮き彫りになった。

（人間・社会系部門 腰原 幹雄）



長い木造校舎（岩手県）

OETRのシンポジウム 「美しく力強い沿岸 都市再生と海洋エネルギー」が開催される

3月27日(火)午後より、本所An棟のコンベンションホールにて、OETR(Ocean Energy for Tohoku Regeneration)連携研究グループ主催のシンポジウム「美しく力強い沿岸都市再生と海洋エネルギー」が開催された。これは本所の海洋工学と都市再生の研究者を中心に、東北の復興への提言を分野融合的に行おうというものであり、昨年11月1日に岩手県盛岡市での開催に続くシンポジウムである。

まず、主催者挨拶としてグループリーダーの木下健教授がOETRの活動趣旨を述べた後、来賓代表として野田武則氏(釜石市長)からシンポジウムへの期待が寄せられた。続く基調講演では、佐々木淳氏(岩手県商工労働観光部)が、岩手県の復興計画におけるエネルギー拠点構想についての発表を行い、建築家の伊藤

豊雄氏(釜石市復興アドバイザー)が、市民主体のまちづくりの重要性を訴えた。さらに佐々隆裕氏(釜石市企業立地推進本部)からは釜石のスマートコミュニティ構想について、荒川忠一教授(本学工学系研究科)からは海外の海洋エネルギー研究拠点の先進性についての解説があった。

基調講演に引き続き、OETRグループの提言の中間報告が太田浩史講師、北澤大輔准教授、須田義大教授、黒崎明特任教授(以上本所)、早稲田卓爾准教授(本学新領域創成科学研究科)より行われた。これは洋上風力、波力、潮力などの高いポテンシャルを持つ三陸海岸に海洋エネルギーの研究所を設立し、それを中心に水産業・科学研究・ツーリズムが融合するスマートコミュニティを構想しようというものである。続いて、構想に必要な視点として太田義孝氏(ブ

リテイッシュコロンビア大学)からは総合的海洋空間計画の必要性、中原裕幸教授(横浜国立大学)と多部田茂准教授(本学新領域創成科学研究科)からは漁業・水産加工業との協調が示された。最後には伊藤香織准教授(東京理科大学)から市民が自負と誇りを持つことができる「シビックプライド」の必要性が指摘され、シンポジウムは幕を閉じた。

満員となった聴衆からは、復興という長期的な課題への体制作りの必要性とともに、OETRの特色である「海と陸の知見の融合」への大きな期待が寄せられた。今後の最終報告に向け、地元の方々、関係諸機関とのより一層の協働を行いたいと考えている。

(人間・社会系部門 太田 浩史)



ワークショップ「Building Resilience and Adaptability in the Built Environment 人工環境におけるレジリエンスとアダプタビリティの構築」開催

本所では、コーネル大学とともに、サステナブル建築・都市に関する日本・米国・中国共同連続ワークショップを開催しています。三大経済大国の研究者・実務者の間で課題にかかわる共通認識を構築することを目的としています。昨年7月13日（金）、14日（土）に上海で開かれた第一回ワークショップに引き続き、3月23日に本所にて、第二回ワークショップが開催されました。北京大学、華南科技大学、フランス CSTB、国土交通省、住友信託銀行及び本学研究者（本所、新領域創成科学研究科、都市持続再生研究センター）が「都市の脆弱性」についてそれぞれの立

場から発表を行うとともに、密実な議論を展開し、国や職能を越えた多角的な視点に立った共通枠組みを構築するための手がかりを得ることが

できました。

（人間・社会系部門 野城 智也）



第7回生研サロンが開催される

2011年度最後の生研サロンが3月29日（水）に開催されました。今回は情報・エレクトロニクス系部門から野村政宏先生と池内克史先生にお話を頂きました。マラソンがご趣味の野村先生は「半導体ナノ構造における電子と熱伝導に関する話題」と題して、体温で発電する腕時計などの興味深い例を挙げながら、電子と

熱伝導研究の動向について大変わかりやすくご説明されました。野村先生のお話が参加者の想像力を刺激してしまったようで、夢のようなアイテムの実現の可能性について沢山の質問が寄せられました。

池内先生からは「e-Heritage プロジェクト」と題して、維持管理が危機的な状態



にある文化財をデジタル画像として後世に残すための様々な技術・研究成果をご紹介いただきました。カンボジアのバイヨン遺跡でのプロジェクトを通じて開発された様々な技術と、それにより明らかにされた考古学的知見、研究成果のクラウドミュージアムや

防災活動への適用に関するお話は非常に刺激的でした。

生研サロンは2012年度も定期的開催する予定です。基本的に若手と上長の先生のペアで、気軽な雰囲気の中でお話頂きます。今後も皆様のご参加をお待ちしております。

（企画運営室 清田 隆）

先進モビリティ研究センター (ITS センター) 国際シンポジウム 「International Symposium on ITS Research 2012 in Kuala Lumpur」開催される

4月14日(土)午前9時よりマレーシア・クアラルンプールのHotel Armada Petaling JayaのAtlanta East Ballroomにて、先進モビリティ研究センター(ITSセンター)およびInstitution of Engineers, Malaysia(IEM)の主催でITS(Intelligent Transport Systems:高度道路交通システム)に関する国際シンポジウムが開催された。本シンポジウムは、2008年から毎年(ただし、ITS World CongressがAsia-Pacific地域で開催される年を除く)開かれるAsia-Pacific ITS Forum & ExhibitionのSpecial Academic Programとして開催しており、今年はシンガポール、バンコク、台北に続いて4回目となる。ITSの発展のために、交通、情報、機械工学の研究分野の融合と国を超えた共同活動がより重要となっていることから、毎回、様々な国から専門家を招いて開催しており、今年は日本、マレーシア、台湾、オーストラリアの4か国14名の専門家をお迎えして各国のITSの情勢報告と意見

交換を行った。

IEMのVincent Chen Kim Kieong会長と須田義大ITSセンター長の開会挨拶から始まった本シンポジウムでは、ITS Japanの天野肇常務理事、ITS MalaysiaのMohamad Bin Husin会長のご挨拶も頂き、本セミナーへの大きな関心が示された。第1部ITS Innovationでは、マレーシアのMohamed Rehan bin Karim教授、台湾のJason Chang教授、ITSセンターの牧野浩志准教授の3名が、路車間通信の現状・あり方、ウェブやクラウド技術を活用した新しい公共交通サービス等、益々発展するITSの最新動向に関する発表を行った。第2部Traffic Managementでは、マレーシアのAhmad Farhan Mohd Sadullah教授、東北大学の桑原雅夫教授(ITSセンター兼任教授)、愛媛大学の吉井稔雄教授、オーストラリアのEdward Chung教授(ITSセンター客員教授)の4名が、最新の交通センシング技術・制御技術、Bluetoothを利用した交通管理技術等について講演し

た。第3部Vehicle Control & Image Processingでは、ITSセンターの須田義大教授および池内克史教授、マレーシアのRiza Atiq Rahmat教授およびTay Yong Haur准教授の4名が、持続可能なITSのための車両制御技術、最新画像処理技術のITSへの活用、アンドロイド基盤プラットフォームを活用したITSアプリケーション等について講演した。第4部Sustainabilityでは、ITSセンターの大口敬教授および洪性俊助教、タイのSorawit Narupiti准教授の3名が電気自動車(EV)の普及を想定した急速充電ステーションの最適配置、交通シミュレーションを利用した環境評価技術等について講演し、活発な議論が行われた。聴衆のほとんどはマレーシア現地のITS関連専門家・エンジニアであったが、各国、特に日本のITSに関する最新研究動向については熱心に興味を示すなど、本シンポジウムは大盛況で終わった。

(先進モビリティ研究センター
洪 性俊)



登壇者記念撮影および会場の様子

第22回 ICUS オープンレクチャ 「復興を俯瞰して考える」を開催

都市基盤安全工学国際研究センター (ICUS) は、4月16日(月)午後、An棟コンベンションホールにて第22回 ICUS オープンレクチャ「復興を俯瞰して考える」を開催した。大震災から1年、日本社会は、超広域・壊滅的巨災からの復興という未経験の課題に奮闘しているところである。しかし、未解決課題が山積したままである。被災地に寄り添う復興支援も重要ではあるが、今回

は、あえて被災地全体を俯瞰した視点から復興のあり方について、4名の外部講師を招いて議論した。

講演では、ICUS 准教授・加藤孝明の「復興を俯瞰して考えることの意義」に引き続き、室崎益輝・関西学院大学教授より「あるべき復興と減災の哲学」、鈴木浩・福島大名誉教授より「福島復興の課題と展望」、中林一樹・明治大学特任教授より「災害復興と事前復興の国づくり」、川上征雄・国土

交通省大臣官房審議官より「復興・減災と国土政策」をテーマに講演いただいた。パネルディスカッションでは、リスクの許容、復興のスピード、原発被災地におけるプランナーの役割等、幅広い論点で議論がなされた。参加者は245名と大盛況であった。

ICUSでは、今回を皮切りに復興に焦点をあてた企画を続ける予定である。
(都市基盤安全工学国際研究センター 加藤 孝明)



VISITS

外国人研究者講演会

<p>4月24日(火) 司会：教授 藤井 輝夫 Dr. David Juncker Associate Professor, McGill University, Canada MICROFLUIDICS AND MICROARRAYS: MULTIPLEXED IMMUNOASSAYS, DIAGNOSTICS, TISSUE STAINING AND SINGLE CELL STIMULATION</p>	<p>5月16日(水) 司会：教授 大岡 龍三 Prof. J. Fergus Nicol Oxford Brookes University, UK THE PRINCIPLES AND PRACTICE OF ADAPTIVE THERMAL COMFORT</p>
<p>5月15日(火) 司会：助教 佐藤 琢哉 Prof. Boris A. Ivanov ウクライナ科学アカデミー・磁性研究所, ウクライナ ULTRAFAST LONGITUDINAL EVOLUTION OF MAGNETIZATION FOR MAGNETIC MATERIALS</p>	

博士研究員

氏名	国籍	研究期間	受入研究室
三木 優彰	日本	2012. 4.1 ~ 2013. 3.31	人間・社会系部門 川口研究室
HUANG, WanWen (黄 琬雯)	台湾	2012. 4.1 ~ 2013. 3.31	人間・社会系部門 藤井(明)研究室

東京大学特別研究員

氏名	国籍・所属	研究期間	受入研究室
ZHANG, Weirong (張 偉榮)	中国	2012. 4.1 ~ 2013. 3.31	人間・社会系部門 加藤(信)研究室
吉田 健治	日本	2012. 4.1 ~ 2013. 3.31	情報・エレクトロニクス系部門 平川研究室
新 奈緒子	日本	2012. 4.1 ~ 2014.11.30	物質・環境系部門 谷口研究室

PERSONNEL

人事異動

生産技術研究所 教員等

(退職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24. 3.31	岡野 達雄	定年退職	文京学習センター長 放送大学	教授 基礎系部門真空物理工 学分野
24. 3.31	黒田 和男	定年退職	特任教授 宇都宮大学	教授 基礎系部門量子光学デ バイス分野
24. 3.31	渡辺 正	定年退職	教授 東京理科大学総合教育 機構	教授 附属サステイナブル材 料国際研究センター持 続性材料化学分野
24. 3.31	岡本 伸英	定年退職	—	助手 試作工場
24. 3.31	田中 伸治	辞職	准教授 横浜国立大学大学院都 市イノベーション研究 院	講師 附属都市基盤安全工学 国際研究センター
24. 3.31	加藤 祐樹	辞職	助教 名古屋大学大学院理 学研究所	助教 物質・環境系部門
24. 3.31	永井 崇	辞職	准教授 千葉工業大学工学部	助教 物質・環境系部門

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24. 3.31	谷川 竜一	辞職	助教 京都大学地域研究統合 情報センター	助教 人間・社会系部門
24. 4.15	瀬戸 心太	辞職	特任准教授	講師 人間・社会系部門

(学内異動(入))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24. 5. 1	長谷川洋介	配置換	助教 附属エネルギー工学連 携研究センター	助教 大学院工学系研究科

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24. 4. 1	腰原 幹雄	昇任	教授 人間・社会系部門	准教授 附属都市基盤安全工学 国際研究センター
24. 4.16	新野 俊樹	昇任	教授 機械・生体系部門	准教授 機械・生体系部門

PERSONNEL

(採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24.4.1	梶原 優介	採用	講師 機械・生体系部門	特任研究員 大学院総合文化研究科
24.4.1	守谷 頼	採用	助教 基礎系部門	特任助教
24.4.1	金 炯俊	採用	助教 人間・社会系部門	博士研究員 カリフォルニア大学水 文モデリングセンター

(任期付教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24.4.1	堤 敦司	配置換	教授 附属エネルギー工学連 携研究センターエネル ギープロセス分野	—
24.4.1	帯川 利之	任期更新	教授 機械・生体系部門高度 生産システム分野	—
24.4.1	都井 裕	任期更新	教授 機械・生体系部門構造・ 材料シミュレーション 分野	—

(所長・附属研究施設長)

発令年月日	氏名	異動内容	新兼務職名・所属	旧兼務職名・所属
24.4.1	中埜 良昭	兼務	所長	—
24.4.1	加藤 信介	兼務	副所長	—
24.4.1	光田 好孝	兼務	副所長	—
24.4.1	北澤 大輔	兼務	附属千葉実験所所長補 佐	—
24.4.1	加藤 千幸	兼務	附属革新的シミュレ ーション研究センター長	—
24.4.1	鹿園 直毅	兼務	附属エネルギー工学連 携研究センター長	—
24.4.1	藤田 博之	兼務	附属マイクロナノメカ トロニクス国際研究セ ンター長	—
24.4.1	森田 一樹	兼務	附属サステイナブル材 料国際研究センター長	—
24.4.1	岡部 徹	兼務	附属サステイナブル材 料国際研究センター副 センター長	—

(兼任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
24.4.1	村松 伸	兼任	教授 人間・社会系部門	教授 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 研究部
24.4.1	桑原 雅夫	兼任	教授 附属先進モビリティ研 究センター	教授 国立大学法人東北大学 大学院情報科学研究科

(兼務教員)

発令年月日	氏名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
24.4.1	大島 まり	兼務	教授 機械・生体系部門	教授 大学院情報学環
24.4.1	池内 克史	兼務	教授 附属先進モビリティ研 究センター	教授 大学院情報学環
24.4.1	年吉 洋	兼務	教授 附属マイクロナノメカ トロニクス国際研究セ ンター	教授 先端科学技術研究セン ター
24.4.1	瀬崎 薫	兼務	教授 情報・エレクトロニク ス系部門	教授 空間情報科学研究セン ター
24.4.1	高宮 真	兼務	准教授 情報・エレクトロニク ス系部門	准教授 大規模集積システム設 計教育研究センター
24.4.1	根本 利弘	兼務	准教授 情報・エレクトロニク ス系部門	准教授 地球観測データ統融合 連携研究機構

発令年月日	氏名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
24.4.1	前田 正史	兼務	教授 附属サステイナブル材 料国際研究センター	理事・副学長
24.4.1	尾張 真則	兼務	教授 物質・環境系部門	教授 環境安全研究センター
24.4.1	柴崎 亮介	兼務	教授 人間・社会系部門	教授 空間情報科学研究セン ター
24.4.1	大原 美保	兼務	准教授 附属都市基盤安全工学 国際研究センター	准教授 大学院情報学環
24.4.1	芳村 圭	兼務	准教授 人間・社会系部門	准教授 大気海洋研究所
24.4.1	中野 公彦	兼務	准教授 附属先進モビリティ研 究センター	准教授 大学院情報学環
24.4.1	目黒 公郎	兼務	教授 附属都市基盤安全工学 国際研究センター	教授 大学院情報学環
24.4.1	TIXIER EPOUSE M I T A AGNES LAURE MARIE BEATRICE	兼務	准教授 附属マイクロナノメカ トロニクス国際研究セ ンター	准教授 先端科学技術研究セン ター
24.4.1	上條 俊介	兼務	准教授 戦略情報融合国際研究 センター	准教授 大学院情報学環
24.4.1	吉川 健	兼務	准教授 サステイナブル材料国 際研究センター	准教授 環境安全研究センター
24.4.1	佐藤 光三	兼務	教授 附属エネルギー工学連 携研究センター	教授 大学院工学系研究科
24.4.1	堂免 一成	兼務	教授 附属エネルギー工学連 携研究センター	教授 大学院工学系研究科
24.4.1	田中 知	兼務	教授 附属エネルギー工学連 携研究センター	教授 大学院工学系研究科
24.4.1	藤井 康正	兼務	教授 附属エネルギー工学連 携研究センター	教授 大学院工学系研究科
24.4.1	菊地 隆司	兼務	准教授 附属エネルギー工学連 携研究センター	准教授 大学院工学系研究科
24.4.1	日高 邦彦	兼務	教授 附属エネルギー工学連 携研究センター	教授 大学院工学系研究科
24.4.1	原 祥太郎	兼務	特任講師	特任講師 大学院工学系研究科
24.4.1	津本 浩平	兼務	教授 物質・環境系部門	教授 医科学研究所

(客員部門)

発令年月日	氏名	異動内容	職名・所属	本務職名・所属
24.4.1	CHUNG, Edward	委嘱 称号付与	講師(客員教授) 附属先進モビリティ研 究センター	—
24.4.1	大野 隆央	委嘱 称号付与	講師(客員教授) 高次協調モデリング部 門	—
24.4.1	許 正憲	委嘱 称号付与	講師(客員教授) 附属海中工学国際研 究センター	—
24.4.1	小高 俊彦	委嘱 称号付与	講師(客員教授) 附属戦略情報融合国際 研究センター	—
24.4.1	横田 弘	委嘱 称号付与	講師(客員教授) 附属都市基盤安全工学 国際研究センター	—

PERSONNEL

発令年月日	氏名	異動内容	職名・所属	本務職名・所属
24.4.1	市橋 康吉	委嘱 称号付与	講師(客員教授) 附属都市基盤安全工学 国際研究センター	—
24.4.1	澤田 賢治	委嘱 称号付与	講師(客員教授) 附属サステイナブル材 料国際研究センター	—
24.4.1	富山 哲男	委嘱 称号付与	講師(客員教授) 人間・社会系部門	—
24.4.1	田中 敏久	委嘱 称号付与	講師(客員教授) 附属先進モビリティ研 究センター	—
24.4.1	藤田 明博	委嘱	教授 附属先進モビリティ研 究センター	理事 理化学研究所
24.4.1	丸山 康樹	委嘱 称号付与	講師(客員教授) 附属エネルギー工学連 携研究センター	—
24.4.1	中村 崇	委嘱 称号付与	講師(客員教授) 附属サステイナブル材 料国際研究センター	—
24.4.1	大和田秀二	委嘱 称号付与	講師(客員教授) 附属サステイナブル材 料国際研究センター	—
24.4.1	山口 勉功	委嘱 称号付与	講師(客員教授) 附属サステイナブル材 料国際研究センター	—
24.4.1	柴山 敦	委嘱 称号付与	講師(客員教授) 附属サステイナブル材 料国際研究センター	—
24.4.1	鈴木 高宏	委嘱 称号付与	講師(客員准教授) 附属先進モビリティ研 究センター	—
24.4.1	呉 光強	委嘱 称号付与	講師(客員教授) 機械・生体系部門	—
24.4.1	安達 淳	委嘱 称号付与	講師(客員教授) 附属戦略情報融合国際 研究センター	—
24.4.1	陳 洛南	委嘱 称号付与	講師(客員教授) 最先端数理モデル連携 研究センター	—
24.4.1	高橋陽一郎	委嘱 称号付与	講師(客員教授) 最先端数理モデル連携 研究センター	—
24.4.16	尾形 良彦	委嘱 称号付与	講師(客員教授) 最先端数理モデル連携 研究センター	—
24.4.16	宿谷 昌則	委嘱 称号付与	講師(客員教授) 人間・社会系部門	—

(寄付研究部門等)

発令年月日	氏名	異動内容	職名・所属	本務職名・所属
24.4.1	志村 努	兼務	特任教授 ニコイメーシングサイ エンス寄付研究部門	教授 基礎系部門
24.4.1	岡部 徹	兼務	特任教授 非鉄金属資源循環工学 寄付研究部門	教授 物質・環境系部門
24.4.1	前田 正史	兼務	特任教授 非鉄金属資源循環工学 寄付研究部門	理事・副学長
24.4.1	野城 智也	兼務	特任教授 建物におけるエネル ギー・デマンドの能動・ 包括制御技術社会連携 研究部門	教授 人間・社会系部門
24.4.1	大岡 龍三	兼務	特任教授 建物におけるエネル ギー・デマンドの能動・ 包括制御技術社会連携 研究部門	教授 人間・社会系部門
24.4.1	須田 義大	兼務	特任教授 モビリティ・フィール ドサイエンス社会連携 研究部門	教授 附属先進モビリティ研 究センター

(特任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24.3.31	久保田重夫	任期満了	フェロー オキサイド	特任教授
24.3.31	高橋陽一郎	任期満了	講師(客員教授) 最先端数理モデル連携 研究センター	特任教授(短時間)
24.3.31	滝口 清昭	任期満了 (プロジェクト変更)	特任准教授	特任准教授
24.3.31	藤本 壮介	任期満了	代表 藤本壮介建築設計事務 所	特任准教授(短時間)
24.3.31	福場 辰洋	任期満了	技術研究主任 海洋研究開発機構	特任准教授
24.3.31	葉 仁風	任期満了	上席研究員 土木研究所水災害・リ スクマネジメント国際 センター	特任准教授
24.3.31	守谷 頼	任期満了	助教 基礎系部門	特任助教
24.3.31	木村 啓志	任期満了	専任講師 東海大学	特任助教
24.3.31	小野晋太郎	任期満了	特任助教	特任助教(短時間)
24.3.31	阪野 貴彦	任期満了	研究職員 産業技術総合研究所	特任助教
24.3.31	宮地 幸祐	任期満了	特任助教 中央大学	特任助教
24.3.31	吉田 浩爾	任期満了	技術補佐員 大学院農学生命科学研 究科	特任助教
24.3.31	井上 茂	任期満了	特任助教 先端科学技術研究セン ター	特任助教
24.3.31	木口 雅司	任期満了 (プロジェクト変更)	特任助教	特任助教
24.4.1	大木 裕史	採用	特任教授(短時間)	常務執行役員兼研究開 発本部長 株式会社ニココン コア テクノロジーセンター
24.4.1	谷口 維紹	採用	特任教授	教授 大学院医学系研究科
24.4.1	滝口 清昭	採用 (プロジェクト変更)	特任准教授	特任准教授
24.4.1	馬郡 文平	採用	特任講師	特任研究員
24.4.1	水野 勝紀	採用	特任助教	同志社大学大学院生命 医科学研究科生命医科 学専攻博士後期課程
24.4.1	安藝 雅彦	採用	特任助教	特任研究員
24.4.1	林 世彬	採用	特任助教	特任研究員
24.4.1	川越 至桜	採用	特任助教	特任研究員
24.4.1	金田 祥平	採用	特任助教	特任研究員
24.4.1	鄭 仁成	採用	特任助教	特任研究員
24.4.1	小野晋太郎	採用	特任助教	特任助教(短時間)
24.4.1	加古 敏	採用	特任助教	特任助教 ナノ量子情報エレクト ロニクス研究機構
24.4.1	熊谷 直人	採用	特任助教	特任助教 ナノ量子情報エレクト ロニクス研究機構
24.4.1	渡邊 克之	採用	特任助教	特任助教 ナノ量子情報エレクト ロニクス研究機構
24.4.1	奥 牧人	採用	特任助教	特別研究員 日本学術振興会
24.4.1	徐 東準	採用	特任助教	技術補佐員
24.4.1	西尾 純子	任命	特任助教	特任助教 大学院医学系研究科
24.4.1	根岸 英雄	採用	特任助教	助教 大学院医学系研究科
24.4.1	柳井 秀元	採用	特任助教	助教 大学院医学系研究科

PERSONNEL

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24. 4. 1	木口 雅司	採用 (プロジェクト変更)	特任助教	特任助教
24. 4. 1	関山 絢子	採用	特任助教	嘱託助教 東京情報大学総合情報学部
24. 4. 15	THORNTON BLAIR	辞職	特任准教授	特任助教
24. 4. 15	鍛冶 伸裕	辞職	特任准教授	特任助教
24. 4. 15	合田 和生	辞職	特任准教授	特任助教
24. 4. 16	THORNTON BLAIR	採用	特任准教授	特任助教
24. 4. 16	鍛冶 伸裕	採用	特任准教授	特任助教
24. 4. 16	合田 和生	採用	特任准教授	特任助教
24. 4. 16	瀬戸 心太	採用	特任准教授	講師 人間・社会系部門
24. 4. 16	小森 大輔	任命	特任准教授	特任助教
24. 4. 16	張 信	任命	特任助教	特任研究員
24. 4. 30	池田 裕一	辞職	特定教授 京都大学学際融合教育研究推進センター	特任准教授

(特任研究員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24. 3. 31	LEOCMACH MATHIEU LAM SON OLIVIER	任期満了	特任研究員 (短時間)	特任研究員
24. 3. 31	ALBINA J AN - MICHAËL ARMAND	任期満了	特任研究員 (短時間)	特任研究員
24. 3. 31	岸本 啓	任期満了	—	特任研究員
24. 3. 31	飯塚 宣行	任期満了	開発員 宇宙航空研究開発機構	特任研究員
24. 3. 31	小野 謙二	任期満了	チームリーダー 理化学研究所計算科学研究機構	特任研究員
24. 3. 31	近藤 恒	任期満了	財団法人高度情報科学技術研究機構	特任研究員
24. 3. 31	梶田 浩義	任期満了	助教 大阪大学産業科学研究所	特任研究員
24. 3. 31	安藝 雅彦	任期満了	特任助教	特任研究員
24. 3. 31	林 世彬	任期満了	特任助教	特任研究員
24. 3. 31	川越 至桜	任期満了	特任助教	特任研究員
24. 3. 31	上村 典子	任期満了	—	特任研究員
24. 3. 31	恒川 直樹	任期満了	特任研究員 (短時間)	特任研究員
24. 3. 31	金田 祥平	任期満了	特任助教	特任研究員
24. 3. 31	H S I A O AMY YU CHING	任期満了	外国人特別研究員 日本学術振興会	特任研究員
24. 3. 31	鄭 仁成	任期満了	特任助教	特任研究員
24. 3. 31	黒澤 修	任期満了	—	特任研究員
24. 3. 31	朴 梲昱	任期満了	特任研究員 カリフォルニア工科大学	特任研究員
24. 3. 31	上村 淳	任期満了	特別研究員 日本学術振興会	特任研究員
24. 3. 31	馬郡 文平	任期満了	特任講師	特任研究員
24. 3. 31	塚田 由紀	任期満了 (プロジェクト変更)	特任研究員	特任研究員
24. 3. 31	本多 敦	任期満了	特任研究員 (短時間)	特任研究員
24. 4. 1	村田憲一郎	採用	特任研究員	特任研究員 (短時間)
24. 4. 1	佐藤 芳紀	採用	特任研究員	研究職員 九州工業大学大学院生命体工学研究科
24. 4. 1	西田 祐也	採用	特任研究員	研究職員 九州工業大学大学院生命体工学研究科
24. 4. 1	杉本振一郎	採用	特任研究員	特任研究員 大学院工学系研究科
24. 4. 1	渡邊 千鶴	採用	特任研究員	特任研究員 (短時間)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24. 4. 1	李 源哲	採用	特任研究員	特別研究員 カリフォルニア大学バークレー校バークレーセンサー&アクチュエーターセンター/オークランド研究所小児病院
24. 4. 1	根岸みどり	採用	特任研究員	特別研究員 日本学術振興会
24. 4. 1	三浦 重徳	採用	特任研究員	特定研究員 (学術支援) 京都大学再生医科学研究所
24. 4. 1	澤井 賢一	採用	特任研究員	特別研究員 日本学術振興会
24. 4. 1	小柴 隆二	採用	特任研究員	東京大学大学院医学系研究科病態・病理学専攻博士課程
24. 4. 1	塚田 由紀	採用 (プロジェクト変更)	特任研究員	特任研究員
24. 4. 1	山崎 大	採用	特任研究員	東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻博士課程
24. 4. 1	林 大輔	採用	特任研究員	—
24. 4. 1	石川 典貴	採用	特任研究員	小石川建築/小石川土木/技術補佐員
24. 4. 16	陳 柏宏	採用	特任研究員	東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻博士課程
24. 5. 1	高 晟齊	採用	特任研究員	—

(学術支援専門職員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24. 4. 1	FRANCES NATHALIE ANNE	採用	学術支援専門職員	EU プロジェクト専門職員 フランス国立科学センター 欧州研究・国際協力事務所
24. 4. 1	松本 直子	育児休業期間変更	学術支援専門職員	—
24. 4. 16	松本 直子	育児休業期間満了復帰	学術支援専門職員	—

(学術支援職員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24. 4. 1	大井あき子	採用	学術支援職員	—
24. 4. 1	北川 理恵	採用	学術支援職員	—

生産技術研究所 技術系

(退職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24. 3. 31	板倉 博	定年退職	—	技術専門員 機械・生体系部門
24. 3. 31	鈴木 常夫	定年退職	—	技術専門員 機械・生体系部門
24. 3. 31	金子 和行	定年退職	—	技術専門員 流体テクノ室

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24. 4. 1	坂巻 隆	昇任	技術専門員 機械・生体系部門	技術専門職員 機械・生体系部門
24. 4. 1	上村 康幸	昇任	技術専門員 機械・生体系部門	技術専門職員 機械・生体系部門
24. 4. 1	小倉 正平	昇任	技術専門職員 基礎系部門	技術職員 基礎系部門

(休職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24. 4. 7	飯塚 哲彦	休職更新	技術専門職員 情報・エレクトロニクス系部門	—

PERSONNEL

(育児休業)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24.4.1	宮下 千花	育児休業期間変更	技術職員 人間・社会系部門	—

(再雇用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24.3.31	鶴 達郎	再雇用 任期満了	—	再雇用教職員 物質・環境系部門
24.3.31	小西 義幸	再雇用 任期満了	—	再雇用教職員 試作工場
24.4.1	板倉 博	再雇用	再雇用教職員 機械・生体系部門	—
24.4.1	金子 和行	再雇用	再雇用教職員 流体テクノ室	—
24.4.1	小池 雅洋	再雇用 任期更新	再雇用教職員 人間・社会系部門	—
24.4.1	星野 富夫	再雇用 任期更新	再雇用教職員 人間・社会系部門	—
24.4.1	米良 忠久	再雇用 任期更新	再雇用教職員 試作工場	—
24.4.1	福尾 哲二	再雇用 任期更新	再雇用教職員 試作工場	—
24.4.1	鈴木 常夫	再雇用 任期更新	再雇用教職員 電子計算機室	—
24.4.1	高山 俊雄	再雇用 任期更新	再雇用教職員 物質・環境系部門	—
24.4.1	千原 正男	再雇用 任期更新	再雇用教職員 基礎系部門	—
24.4.1	瀬川 茂樹	再雇用 任期更新	再雇用教職員 機械・生体系部門	—
24.4.1	小駒 幸江	再雇用 任期更新	再雇用教職員 人間・社会系部門	—
24.4.1	小野寺 章	再雇用 任期更新	再雇用教職員 試作工場	—
24.4.1	滑川 敏夫	再雇用 任期更新	再雇用教職員 試作工場	—
24.4.1	平原 清光	再雇用 任期更新	再雇用教職員 電子計算機室	—

生産技術研究所 事務系

(学内異動(出))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24.4.1	増田 浩一	配置換	労務・勤務環境課長 人事部	総務課長 ／総務課研究環境調整 室室長
24.4.1	大塚 章	配置換	係長 人事部人事給与課給与 制度チーム	総務課係長(人事・厚 生チーム)
24.4.1	渡邊 恵理	配置換	主任 農学系教務課専攻支援 チーム	総務課主任(国際交流 チーム)
24.4.1	水落 利明	昇任	係長 医学部・医学系研究科 情報サービス係	総務課主任(図書チ ーム) 図書チームサブリー ダー
24.4.1	永野 太	配置換	係長 医学部附属病院管理課 施設管理チーム	総務課係長(研究環境 調整室施設チーム) 施設チームサブリー ダー
24.4.1	部 正規	昇任	副課長 財務部財務課予算チ ーム	経理課専門職員(予算 執行チーム) 予算執行チームリー ダー
24.4.1	辻谷 宏	配置換	係長 医学部・医学系研究科 研究協力係	経理課係長(予算執行 チーム) 予算執行チームサブ リーダー

(学内異動(入))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24.4.1	松井 正一	昇任	総務課長 ／総務課研究環境調整 室室長	副課長 人事部人材育成課

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24.4.1	石塚 泰史	昇任	経理課専門職員(予算 執行チーム) 予算執行チームリー ダー	係長 財務部契約課集中調達 チーム
24.4.1	野口 達也	配置換	総務課係長(研究環境 調整室施設チーム) 施設チームサブリー ダー	係長 教育学部・教育学研究 科財務・研究支援チ ーム
24.4.1	成澤 博幸	配置換	総務課係長(研究環境 調整室施設チーム)	施設係長 教養学部等経理課
24.4.1	藤原 明子	配置換	総務課主任(国際交流 チーム)	主任 工学系・情報理工学系 等学務課専攻チーム
24.4.1	三輪 忠義	配置換	総務課主任(図書チ ーム) 図書チームサブリー ダー	主任 農学系総務課図書チ ーム

(復帰)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24.4.1	古牧 修	復帰	総務課係長(人事・厚 生チーム)	係長 国立情報学研究所総務 部研究促進課人事労務 チーム
24.4.1	蛭川 聖二	復帰	経理課係長(予算執行 チーム) 予算執行チームサブ リーダー	財務係長 情報システム研究機構 本部事務局財務課

(採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24.4.1	稲垣あずみ	採用	総務課一般職員(国際 交流チーム)	—

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24.4.1	加藤 牧子	昇任	総務課主任(人事・厚 生チーム)	総務課一般職員(人事・ 厚生チーム)
24.4.1	田所 麻里	昇任	経理課主任(財務・監 査チーム)	経理課一般職員(財務・ 監査チーム)
24.4.1	赤池 真	昇任	経理課主任(連携研究 支援室企画チーム)	経理課一般職員(連携 研究支援室企画チーム)

(育児休業)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24.4.1	塩田このみ	育児休業 期間変更	一般職員 総務課人事・厚生チ ーム	—

(再雇用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24.4.1	三井 伸子	再雇用 任期更新	再雇用教職員 総務課総務・広報チ ーム	—
24.4.1	三浦 孝樹	再雇用 任期更新	再雇用教職員 経理課予算執行チ ーム	—
24.4.1	林 美郷	再雇用 任期更新	再雇用教職員 千葉実験所事務室	—

地球観測データ統融合連携研究機構 教員等

(特任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24.3.31	辻本久美子	任期満了	助教 大学院工学系研究科	特任助教
24.4.1	部 肖偉	採用	特任准教授	特任講師 空間情報科学研究セン ター
24.4.1	尾花まき子	採用	特任助教	特任助教 名古屋大学大学院工学 研究科
24.4.1	洪尾 欣弘	採用	特任助教	特任助教 大学院工学系研究科附 属総合研究機構

PERSONNEL

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24. 4. 1	吉岡 明良	採用	特任助教	特別研究員 日本学術振興会

(特任研究員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24. 4. 1	宮崎 浩之	採用	特任研究員	特別研究員 日本学術振興会
24. 5. 1	SHRESTHA MAHESWOR	採用	特任研究員	水力技師 ネパールエネルギー省 電力開発局

ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構 教員等

(兼務教員)

発令年月日	氏名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
24. 4. 1	荒川 泰彦	兼務	教授	教授 生産技術研究所
24. 4. 1	今井 浩	兼務	教授	教授 大学院情報理工学系研究 科
24. 4. 1	大津 元一	兼務	教授	教授 大学院工学系研究科
24. 4. 1	勝本 信吾	兼務	教授	教授 物性研究所
24. 4. 1	五神 真	兼務	教授	教授 大学院工学系研究科
24. 4. 1	田中 雅明	兼務	教授	教授 大学院工学系研究科
24. 4. 1	樽茶 清悟	兼務	教授	教授 大学院工学系研究科
24. 4. 1	平川 一彦	兼務	教授	教授 生産技術研究所
24. 4. 1	平本 俊郎	兼務	教授	教授 生産技術研究所
24. 4. 1	古澤 明	兼務	教授	教授 大学院工学系研究科
24. 4. 1	山内 薫	兼務	教授	教授 大学院理学系研究科
24. 4. 1	染谷 隆夫	兼務	教授	教授 大学院工学系研究科
24. 4. 1	高橋 琢二	兼務	准教授	准教授 生産技術研究所
24. 4. 1	町田 友樹	兼務	准教授	准教授 生産技術研究所
24. 4. 1	村尾 美緒	兼務	准教授	准教授 大学院理学系研究科
24. 4. 1	岩本 敏	兼務	准教授	准教授 生産技術研究所
24. 4. 1	野村 政宏	兼務	准教授	准教授 生産技術研究所

(客員部門)

発令年月日	氏名	異動内容	職名・所属	本務職名・所属
24. 4. 1	野田 進	委嘱	教授	教授 京都大学工学研究科
24. 4. 1	田原 修一	委嘱 称号付与	講師 (客員教授)	—
24. 4. 1	高橋 明	委嘱 称号付与	講師 (客員教授)	—
24. 4. 1	矢野 映	委嘱 称号付与	講師 (客員教授)	—
24. 4. 1	竹内 繁樹	委嘱	教授	教授 北海道大学電子科学研究 所
24. 4. 1	山本 喜久	委嘱	教授	教授 情報・システム研究機 構国立情報学研究所
24. 4. 1	石田 寛人	委嘱 称号付与	講師 (客員教授)	—
24. 4. 1	長我部信行	委嘱 称号付与	講師 (客員教授)	—
24. 4. 1	菅原 充	委嘱 称号付与	講師 (客員教授)	—

発令年月日	氏名	異動内容	職名・所属	本務職名・所属
24. 4. 1	北村 雅季	委嘱	准教授	准教授 神戸大学大学院工学研 究科
24. 4. 1	中岡 俊裕	委嘱 称号付与	講師 (客員准教授)	—
24. 4. 1	小寺 哲夫	委嘱	助教	助教 東京工業大学量子ナノ エレクトロニクス研究 センター
24. 4. 1	伊藤 公平	委嘱 称号付与	講師 (客員教授)	—

(特任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24. 3.31	伊藤 公平	任期満了	講師 (客員教授)	特任教授 (短時間)
24. 3.31	加古 敏	任期満了	特任助教 生産技術研究所	特任助教
24. 3.31	熊谷 直人	任期満了	特任助教 生産技術研究所	特任助教
24. 3.31	渡邊 克之	任期満了	特任助教 生産技術研究所	特任助教
24. 4. 1	高橋 駿	採用	特任助教	東京大学大学院工学系 研究科物理学専攻博 士課程

(特任研究員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24. 3.31	阿部 英介	任期満了	特任研究員 国立情報学研究所	特任研究員
24. 3.31	石田 充	任期満了	研究員 株式会社富士通研究所	特任研究員
24. 3.31	菅間 明夫	任期満了	研究員 株式会社富士通研究所	特任研究員
24. 3.31	宮澤 俊之	任期満了	研究員 株式会社富士通研究所	特任研究員
24. 4. 1	宋 海智	任命	特任研究員	研究員 株式会社富士通研究所
24. 4. 1	車 圭晚	採用	特任研究員	東京大学大学院工学系 研究科電気系工学専攻 博士課程
24. 4. 1	安岡 奈美	任命	特任研究員	研究員 株式会社富士通研究所
24. 5. 1	盧 柱亨	任命(免)	シニアデザインリサー チャー (株) QD レーザ	特任研究員
24. 5. 1	西 研一	任命	特任研究員	担当部長 (株) QD レーザ デバ イス事業部

総括プロジェクト機構寄付研究部門「水の知」(サントリー) 総括寄付講座 教員等

(特任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
24. 3.31	田中 幸夫	任期満了	指導職 国際協力機構	特任講師
24. 4.16	前川 美湖	採用	特任助教	客員共同研究員 大学院新領域創成科学 研究科

昇任のご挨拶

人間・社会系部門
教授

腰原 幹雄



4月1日付で、人間・社会系部門の教授に昇任しました。これを機に、専門を「木質構造工学」から「木質構造デザイン工学」と改め、構造だけでなくデザインを含めて、木質構造の可能性をさらに広げていきたいと思っています。An棟前のくうかん実験棟は、その役割を終え3月末に解体いたしました。また、新しい木造建築をご紹介・活用させていただければと思っています。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

人間・社会系部門
特任准教授

瀬戸 心太



4月16日付けで人間・社会系部門の特任准教授に昇任いたしました。専門は、電波を用いた水圏のリモートセンシング（電波水文学）です。今後は、2014年に運用開始予定の衛星搭載二周波降水レーダを中心テーマとして、電波水文学の技術的な発展を目指すとともに、水災害の防災・減災に直接的な貢献ができるように、研究・教育の両面で全力を尽くしたいと決意を新たにしております。引き続き、宜しくお願ひいたします。

情報・エレクトロニクス系部門
特任准教授

鍛冶 伸裕



4月16日付けで情報・エレクトロニクス系部門の特任准教授に昇任いたしました。これまでは、主にウェブテキストを対象とした自然言語処理の研究に従事して参りました。個人による情報発信が盛んに行われる現在、我々の回りには膨大なテキストデータが溢れるようになり、高度なテキスト解析技術に対する社会的ニーズがますます高まりつつあります。そうした社会の期待に答えることができるよう、今後も研究に取り組んでいきたいと考えております。どうぞ宜しくお願ひ致します。

機械・生体系部門
教授

新野 俊樹



4月16日付けで機械・生体系部門（第二部）の教授に昇進いたしました。生研には学生時代、修士課程の2年間お世話になりました。博士課程は私の師匠の異動により生研を離れ、ポスドク、研究員時代を他の研究機関で過ごしましたが、2000年に縁あって生研に戻ってくることができました。現在は付着加工によって3次元CADデータから実体を直接製造する技術などの研究を行っております。今後は自身の研究に精進しつつ、これまでたいへんお世話になった生研に少しずつ恩返しがしていければと思っています。みなさまよろしくお願ひいたします。

附属海中工学国際研究センター
特任准教授

Thornton Blair



4月16日付けで特任准教授に昇任いたしました。これまで海洋調査技術、特に海中ロボットに搭載する現場型センサの研究を行ってきました。近年では、レーザ誘起破壊分光法を用いた海底現場成分分析、非線形超音波と3次元画像マッピングを統合するマンガンクラスト調査システム、海底土放射線量の現場計測技術の開発に取り組んでいます。極限環境が物理現象に及ぼす影響の解明、新しい海底現場計測技術への応用を目指した研究活動を通して、科学的知見に貢献できればと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

情報・エレクトロニクス系部門
特任准教授

合田 和生



4月16日付けで情報・エレクトロニクス系部門の特任准教授に昇任いたしました。これまで、大規模データの効率的な管理とその戦略的な利活用を実現するためのデータベースシステムやストレージシステムといったITシステムの基盤層の研究に取り組んで参りました。現在は、巨大データベースを縦横無尽に解析することのできる高速データベースエンジンソフトウェアの研究を進めております。一層、研究に邁進して参りたいと考えております。よろしくお願ひ申し上げます。

人間・社会系部門
特任准教授

小森 大輔



4月16日付けで人間・社会系部門の特任准教授に昇任いたしました。これまで主にタイ国全土に設置した観測拠点で約10年間の長期に亘る観測を行い、地球規模での気候変動から微気象を捉える乱流観測に至るまで、幅広く水循環・水収支について研究に取り組んできました。今後はその研究を発展させ、特に、乱流観測に含まれる不確実性が地表面の不均一性に起因することを解明し、地表面状態を表す新たな指標の確立を実現したいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

最先端数理モデル連携研究センター
客員教授

尾形 良彦



このたび、統計数理研究所を定年退職し、本研究所客員教授として着任しました。専門は統計地震学および確率点過程モデリング解析などです。私に関わる研究活動の広報についてはWEBサイト：<http://www.ism.ac.jp/~ogata/Ssg/ssg.html> (Google Keywordでは「地震予測解析グループ」)をご参照ください。地震の確率予測の実用化を目指したく、合原先生のプロジェクトに参加させていただきました。よろしくお願い申し上げます。

物質・環境系部門
特任教授

谷口 維紹



この度、4月1日より、分子免疫学分野の特任教授を拝命致しました。私は、1995年～2012年まで本学大学院・医学系研究科・免疫学講座を担当して参りました。その間、免疫系におけるシグナル伝達・遺伝子発現の制御機構を中心に研究を続けて来ましたが、現在は炎症・免疫疾患の克服に向けた応用・開発研究も推進しています。着任にあたり、研究所の多くの皆様からの温かい歓迎とご支援を賜り、研究室一同で深く感謝致しております。関連分野の先生方と連携させていただき、研究所の更なる国際的発展に微力ながら貢献して参りたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

着任のご挨拶

高次協調モデリング客員部門
客員教授

大野 隆央



4月1日付で客員教授に着任いたしました。これまで、ナノ領域の物質・材料、特に、表面・界面物性に関する計算科学研究に携わってきました。CMOSなどの電子デバイスや燃料電池などのエネルギー変換デバイスの開発には、ナノ界面で発現する機能の解明と設計が不可欠であり、そのためには異なる分野間の連携が重要です。分野間の連携を重んじる生研において、刺激を受け発信しながら、次世代デバイス開発を牽引する機能界面計算科学の構築に貢献したいと考えております。よろしくお願いいたします。

人間・社会系部門
客員教授

宿谷 昌則



この4月から客員教授としてお世話になります。私はこれまで、住まい手に優しい建築内外の環境とは何か、それを人に優しい技術によって造るにはどうするかを対象にして研究を行い、また関連する教育に携わってきました。特にエクセルギー概念に関する基礎研究と人間生物学を取り入れた「建築環境学」を私なりに構築することを目指してきました。これからの協働で新たな展開を・・・と思っています。よろしくお願い申し上げます。

機械・生体系部門
講師

梶原 優介



4月1日付で機械・生体系部門の講師として着任いたしました。3月までは教養学部の研究員として、テラヘルツ顕微鏡の開発に取り組んで参りました。着任後も顕微鏡開発は続けますが、本所では新たに基盤生産加工の研究を立ち上げます。ものづくりの基本は加工ですから、一見やり尽くされたように見えて無尽蔵のポテンシャルを秘める分野です。生研ではそのポテンシャルを掘り起こしたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

PERSONNEL

建物におけるエネルギー・デマンドの能動・
包括制御技術 社会連携研究部門
特任講師

馬郡 文平



総務課長

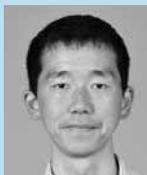
松井 正一



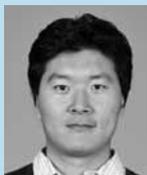
4月より社会連携研究部門「建物におけるエネルギー・デマンドの能動・包括制御技術」を設置していただきました。本研究は、次世代エネルギーシステムに関して、創エネルギー、自然エネルギー、未利用エネルギー、エネルギー融通、省エネルギー等を最適活用するために新たなエネルギーシナジー構造構築し、最適な関連データを活用、社会と通じて実装し、国内外の様々なスマートシステムと連携するシステムを構築。国内外、社会・企業と連携し、次世代プラットフォームを提案するものです。本研究所での活動できることを誇りに、社会実装の中で研究成果に磨きをかけたい所存です。

4月1日付で総務課長に着任しました。前職は本部人材育成課で主に職員の採用、研修、評価等を担当しておりました。駒場地区での勤務ははじめてですが、キャンパスの規模を超えた生研の研究・教育の活動域には驚くばかりで、これから生研の一員として身の引き締まる思いしております。早く環境になれ、信頼が得られるよう努力していき所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

採用



●基礎系部門
町田研究室
助教
守谷 頼



●人間・社会系部門
沖(大)研究室
助教
金 炯俊



●総務課 一般職員
(国際交流チーム)
稲垣あずみ

昇任



●総務課専門職員
(予算執行チーム)
予算執行チームリーダー
石塚 泰史



●総務課係長
(人事・厚生チーム)
古牧 修



●総務課係長
(予算執行チーム)
予算執行チームサブリーダー
蛭川 聖二

配置換



●附属エネルギー工学
連携研究センター
鹿園研究室
助教
長谷川洋介



●総務課係長
(研究環境調整室施設チーム)
施設チームサブリーダー
野口 達也



●総務課係長
(研究環境調整室施設チーム)
成澤 博幸



●総務課主任
(国際交流チーム)
藤原 明子



●総務課主任
(図書チーム)
図書チームサブリーダー
三輪 忠義

A W A R D S

■受賞 教員

所属・研究室	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
附属戦略情報融合国際研究センター	教授 喜連川 優 特任准教授 中野美由紀 元大学院生 西川 記史	Australasian Database Conference (ADC2011) Best Paper Award The Computing Research and Education Association of Australasian	Potentiality of Power Management on Database Systems with Power Saving Function of Disk Drives	2011.1.18
附属エネルギー工学連携研究センター	教授 堤 敦司	功労賞 高圧ガス保安協会	協会の業務に貢献をした功績による	2011.10.28
物質・環境系部門 光田研究室	助教 野瀬 健二 元大学院生 森久 祐弥 教授 佐々木勇斗 光田 好孝	表面技術協会論文賞 一般社団法人 表面技術協会	高周波バイアスパッタにおける DLC 薄膜 / 基材界面の構造変化と耐摩耗特性	2012.2.24
附属エネルギー工学連携研究センター	教授 堤 敦司	功労賞 公益社団法人 化学工学会	工学会の発展に尽力し、多大な貢献をした功績による	2012.3.14
附属エネルギー工学連携研究センター	教授 堤 敦司 特任研究員 石東 真典	化学工学会 粒子・流体プロセス部会 フロンティア賞 化学工学会 粒子・流体プロセス部会	Flow behaviors in the downer of a large-scale triple-bed combined circulating fluidized bed system with high solids mass fluxes	2012.3.16
附属戦略情報融合国際研究センター	教授 佐藤 洋一 大学院生 原田 一馬 特任助教 菅野 裕介	インタラクション2012 インタラクティブ論文賞 一般社団法人 情報処理学会 インタラクション2012	運動視差を用いた直感的なマルチタッチインタラクション	2012.3.17
附属戦略情報融合国際研究センター	教授 喜連川 優	テレコムシステム技術賞 (財)電気通信普及財団	Fast Likelihood Search for Hidden Markov Models	2012.3.19
物質・環境系部門	教授 立間 徹	電気化学会学術賞 公益社団法人 電気化学会	新規な光電気化学過程の開拓と光機能材料への応用	2012.3.30
人間・社会系部門	教授 古関 潤一	地盤工学会功労章 公益社団法人 地盤工学会	学会活動に対する理事・国際部長(平成18~21年度)としての業務担当等による貢献	2012.3.31
情報・エレクトロニクス系部門	准教授 岩本 敏	文部科学大臣表彰・若手科学者賞 文部科学省	半導体アクティブフォトニック結晶の研究	2012.4.17
附属マイクロナノメカトロニクス国際研究センター	准教授 野村 政宏	文部科学大臣表彰 若手科学者賞 文部科学省	単一人工原子レーザの研究	2012.4.17
人間・社会系部門	准教授 芳村 圭	文部科学大臣表彰・若手科学者賞 文部科学省	水の同位体情報を用いた地球水循環システム解明の研究	2012.4.17
附属マイクロナノメカトロニクス国際研究センター	准教授 竹内 昌治	読売テクノ・フォーラム ゴールド・メダル賞 (株)読売新聞東京本社	生体と機械の融合に関する先駆的研究	2012.4.19
基礎系部門	准教授 梅野 宜崇	日本機械学会論文賞 日本機械学会	切欠きからの転位発生に関する原子モデル不安定モード解析	2012.4.20

■学生 受賞

所属・研究室	学年・名前	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
附属都市基盤安全工学国際研究センター 大原研究室	博士課程3年 藤生 慎	2011年日本地震工学会大会 優秀論文発表賞 一般社団法人 日本地震工学会	大規模地震災害後の迅速な建物被害認定のための遠隔認定システムの開発	2011.12.22
附属マイクロナノメカトロニクス国際研究センター 藤井(輝)研究室	修士課程2年 池田 崇	SI2011 優秀講演賞 公益社団法人計測自動制御学会システムインテグレーション部門	薬物動態評価のためのオンチップ吸収代謝モデル	2011.12.25
附属戦略情報融合国際研究センター 喜連川研究室	博士課程3年 西川 記史	学生奨励賞 第4回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム	アプリケーション協調型大規模ストレージ省電力システムの開発と評価	2012.3.4
附属戦略情報融合国際研究センター 喜連川研究室	博士課程1年 早水 悠登	情報処理学会第74回全国大会 学生奨励賞 一般社団法人 情報処理学会	オンライントランザクション処理における高速フラッシュストレージの性能活用に関する実験的考察	2012.3.4
附属戦略情報融合国際研究センター 喜連川研究室	博士課程3年 Hongguang Zheng	学生奨励賞 第4回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム	A Study on Microblog Classification Based on Information Publicness	2012.3.5
附属マイクロナノメカトロニクス国際研究センター 藤田(博)研究室	博士課程3年 佐藤 隆昭	平成23年度優秀博士論文賞 東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻	個体潤滑の機構解明を目指すナノせん断破壊の実時間 TEM 観測	2012.3.22
物質・環境系部門 立間研究室	博士課程1年 古郷 敦史	電気化学会第79回大会優秀ポスター賞 電気化学会	金クラスター増感光電流の金ナノ粒子による増強効果	2012.3.30
機械・生体系部門 柳本研究室	博士課程3年 池内 健義	2011 GMSI AWARD for Outstanding GMSI RESEARCH ASSISTANT 東京大学グローバルCOEプログラム「機械システム・イノベーション国際拠点」	GMSI プログラムへの積極的な参加および貢献	2012.4.3
物質・環境系部門 立間研究室	博士課程3年(現在は特任研究員) 数間恵弥子	日本化学会第92春季年会(2012)学生講演賞 日本化学会	Agナノロッドの可逆な光誘起形態変化に基づく可視-赤外フォトクロミズム	2012.4.12

AWARDS

受賞のことば

附属都市基盤安全工学国際研究センター 大原研究室
博士課程3年

藤生 慎

2011年日本地震工学会大会
優秀論文発表賞

一般社団法人 日本地震工学会

「大規模地震災害後の迅速な建物被害認定のための遠隔認定システムの開発」



附属マイクロナノメカトロニクス国際研究センター 藤井(輝)研究室
修士課程2年

池田 崇

SI2011 優秀講演賞

公益社団法人 計測自動制御学会システムインテグレーション部門

「薬物動態評価のためのオンチップ吸収代謝モデル」



2011年11月に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された日本地震工学会-年次大会2011において、「大規模地震災害後の迅速な建物被害認定のための遠隔認定システムの開発」を発表し、日本地震工学会大会優秀論文発表賞を受賞いたしました。このような賞を頂き大変光栄に思っております。本研究では、大規模地震時に発生する莫大な数の建物被害認定調査を迅速かつ公平に実施するシステムを構築しました。本システムの特徴は、危険な被災地内に調査員が立ち入ることなく建物被害認定調査を実施することが可能となる点です。最後に、研究活動を支えて頂いた、目黒公郎教授、大原美保准教授をはじめ、研究室の皆様へ深く感謝いたします。今後とも精進していく所存でございますので、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

この度優秀講演賞を頂くことができ、大変光栄に思っております。研究活動を支えていただいた、藤井輝夫教授、酒井康行教授をはじめ、研究室の皆様へ心より感謝申し上げます。本研究では、ドラッグスクリーニングの際に用いる動物実験の代替法の構築を目標として、生体内に近い環境を模擬し、小腸の吸収に関する機能と肝臓の代謝に関する機能を再現できるようなマイクロデバイスの開発を行っております。

附属戦略情報融合国際研究センター 喜連川研究室
博士課程3年

西川 記史

学生奨励賞

第4回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム

「アプリケーション協調型大規模ストレージ省電力システムの開発と評価」



附属戦略情報融合国際研究センター 喜連川研究室
博士課程1年

早水 悠登

情報処理学会第74回全国大会

学生奨励賞

一般社団法人 情報処理学会

「オンライントランザクション処理における高速フラッシュストレージの性能活用に関する実験的考察」



この度は第4回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラムにおいて学生奨励賞を頂き、大変光栄に思っております。本研究では、アプリケーションの入出力挙動を利用してストレージの省電力方式を決定することにより、アプリケーションの性能への影響を抑えつつストレージの消費電力を大幅に削減できる可能性を示しました。ご指導賜りました喜連川優教授、中野美由紀特任准教授をはじめとした研究室の皆様へ、深く御礼申し上げます。

情報処理学会第74回全国大会にて学生奨励賞を頂けたことを大変嬉しく思います。本研究では、非常に高速な記憶装置であるフラッシュストレージを対象として、そのデータを読み書きする性能をデータベースソフトウェアが十分に活用できているかを実測により評価し、ソフトウェアの更なる改善・再設計が必要であることを指摘しました。指導教員の喜連川先生はじめ、お世話になった研究室の皆様へ感謝いたします。

AWARDS

附属マイクロナノメカトロニクス
国際研究センター 藤田(博)研究室
博士課程3年

佐藤 隆昭



平成 23 年度優秀博士論文賞
東京大学大学院工学系研究科電気系工
学専攻
「固体潤滑の機構解明を目指すナノ
せん断破壊の実時間 TEM 観測」

優秀博士論文賞を頂きました。本研究では摩擦による接触界面の変形を原子レベルで直接観察することによって、接点の破壊という微視的な現象が摩擦という巨視的な現象にどう寄与するのか考察しました。今回の賞を受けて、もう一人の自分は、今の私を少しはほめても良いのではないかと考えています。昨日より今日、今日より明日。これからも鍛錬を繰り返し、よりよい研究成果を出し続けたいと思います。また、今回の研究に関わった全ての人に感謝しています。ありがとうございました。

機械・生体系部門 柳本研究室
博士課程3年

池内 健義



2011 GMSI AWARD for Outstanding
GMSI RESEARCH ASSISTANT
東京大学グローバル COE プログラム
「機械システム・イノベーション国際
拠点」
「GMSI プログラムへの積極的な参加および貢献」

2011 年度の東京大学グローバル COE プログラム「機械システム・イノベーション国際拠点」(GMSI)における、リサーチ・アシスタントとしての積極的な活動および貢献が認められ、「2011 GMSI AWARD for Outstanding GMSI RESEARCH ASSISTANT」を受賞いたしました。このような賞をいただくことができ、大変光栄に思います。本プログラムでの活動内容が今後の研究活動に大いに役立つものと信じております。最後に、プログラムへの参加をご快諾くださった指導教員の柳本潤教授をはじめ、GMSI 担当教員の先生方、研究活動を支えてくださった皆様に、深く御礼申し上げます。

物質・環境系部門 立間研究室
博士課程1年

古郷 敦史



電気化学会第 79 回大会優秀ポスター賞
電気化学会
「金クラスター増感光電流の金ナノ
粒子による増強効果」

電気化学会第 79 回大会で優秀ポスター賞を頂き大変嬉しく思います。本研究は、金原子 25 個から成る Au₂₅ クラスターを担持した酸化チタン電極に直径数十 nm の金ナノ粒子を導入したところ、ナノ粒子周囲に発生する電場の効果により、光照射下で生成する電流が大きくなったというものです。

お世話になりました立間先生、坂井先生をはじめ研究室の皆様にご心より感謝申し上げます。今回の受賞を励みに一層研究に力を入れていきたいと思っております。

物質・環境系部門 立間研究室
博士課程3年(現在は特任研究員)

数間恵弥子



日本化学会第 92 春季年会(2012)学
生講演賞
日本化学会
「Ag ナノロッドの可逆な光誘起形
態変化に基づく可視-赤外フォト
クロミズム」

この度は、日本化学会第 92 春季年会にて学生講演賞をいただき、大変光栄に思います。本研究は、酸化チタン上の銀ナノロッドの光電気化学反応に基づく可逆な形態変化により、目に見えず赤外カメラでのみ見える画像の記録、多波長・二偏光による画像の多重記録、記録・消去の繰り返し可能な赤外フォトクロミズムを実現しました。本技術はクレジットカードやパスポートなどの認証技術や偽造防止への応用が期待されます。指導教員の立間徹教授をはじめ、研究室の皆様にご場を借りて御礼申し上げます。本受賞を励みに今後も研究にまい進してまいります。

第8回駒場キャンパス

技術発表会発表者募集について

技術職員等による第8回駒場キャンパス技術発表会の発表者を募集いたします。

技術職員が日常業務で携わっている実験装置やソフトウェアの開発、維持管理から改善、改良の話題に及ぶ広範囲な技術的研究支援活動から得られた成果のみならず、研究・開発しようと思った動機や研究・開発途中に発生した困難をどのように克服してきたか、あるいは失敗例についても参加者全員で討論できるような技術にかかわる内容などを募集いたします。

第8回駒場キャンパス技術発表会実行委員会

また個別研修や全学研修の報告、定年を迎える方が技術職員に伝えたいことや技術職員としての集大成、また若手技術職員の5年毎の仕事内容の見直し報告、あるいは再雇用熟練技術職員が今まで身につけた技術の公開等、職務上の技術問題に限定せず、技術職員等の能力向上に役立つものであれば、どのような分野でも歓迎いたします。

みなさまの積極的な応募をお待ちしております。ご応募は下記実行委員へお願いいたします。

募 集 要 項

開催日：2012年10月24日（水）

場 所：駒場Ⅱリサーチキャンパスコンベンションホール（An棟 2階）

応募資格：技術職員、教務系技術職員、助手、助教、事務職員等

発表形式：口頭発表（20～30分）を主とする（誌上発表も可能）

応募〆切：2012年7月6日（金）

応募先：（基礎系部門）河内 泰三（56132）／（機械・生体系部門）小峰 久直（57451）

（情報・エレクトロニクス系部門）長谷川仁則（56242）

（物質・環境系部門）築場 豊（56328）

（人間・社会系部門）西川 功（58172）／（試作）板倉 善宏（58713）

（共通）重田 琢也（56448）／（教養学部）石坂 彰（46063）

（教養学部）野谷 昭男（46138）

実行委員長 片桐 俊彦 tel 03-5452-6143 toshi@iis.u-tokyo.ac.jp

貴方のつぶやきに、返事が来るかも！？

～投稿記事を募集しています！～

生研ニュースでは、読者の皆様のためのコーナーをいつでも用意しております。日常の生研生活を通じて気づいたちょっとしたこと、素敵だと思ったこと、「これは！」と思ったこと、などなど、気軽にお近くの生研ニュース部会員までお届け下さい。

他にも、ニュース部会員が気がついていない様々な情報や記事内容・企画などがありましたら、一言お声をおかけ下さい。

受け付けは常時行っています。思い立ったが吉日、奮ってご寄稿下さい。

なお、記事の採択については、生研ニュース部会にご一任願います。特定の個人や集団の利害に著しく関わるものについては、掲載できない場合もありますので、予めご了承下さい。その他、投稿についてご不明の点がございましたら、いつでもお問い合わせ下さい。

今年もいろいろな情報発信、記憶・記録の源としての役割を担っていこうと、部会員一同気合いが入っています！

お問い合わせ・投稿先 E-mail iisnews@iis.u-tokyo.ac.jp
(生研ニュース部会長 小倉 賢)

PRESS RELEASE

生研関連新聞記事

以下の各紙に掲載された生産技術研究所の研究成果に関する記事について紹介しています。

詳細は、総務・広報チームにお問い合わせください。

・ 読売、朝日、毎日、日本経済、産経、日刊工業、日経産業

なお、その他の新聞に掲載されたものを本欄に記載することを希望される場合は、総務・広報チームへご相談ください。

最新記事	
●ニコン、東京大学生産技術研究所と光学研究者育成 東大に寄付部門 〔4/27 科学工業日報 1面 4/6 日経産業新聞（日経テレコン21）10面、日刊工業新聞 19面〕	【ニコン・イメージングサイエンス寄付研究部門】
●土木研究所と東京大学、協定締結記念で講演会 震災対応など解説 〔4/6 建設通信新聞 8面〕	【土木研究所と生研の連携・協力協定】
●東大、水酸化ニッケル使い 光エネルギーを貯蔵 光触媒、夜間でも作用 汚れ分解や殺菌に活用 〔4/5 日経産業新聞（日経テレコン21）11面〕	【立間 徹 研究室】
●東京大学生産技術研究所ら 第2回 OETR シンポ 東アジアをエネルギー宝庫に 〔4/5 日刊建設産業新聞 2面〕	【第2回 OETR シンポジウム】
●たんぱく質・医薬候補物質の相性 高速・高精度に解析 東大生研などツール開発 〔3/27 日刊工業新聞 28面〕	【加藤千幸 研究室】
●東京大学生産技術研究所 土木研究所と連携協定締結 人材交流、研究開発図る 〔3/19 鉄鋼新聞 4面、3/16 建設通信新聞 1面、日刊工業新聞 25面、日刊建設工業新聞 1面、日刊建設産業新聞 2面、3/15 日刊建設工業新聞 2面〕	【東京大学生産技術研究所】
●東大生産研 世界最高効率を達成 量子ドット太陽電池 軽量化同時に実現 〔4/5 日経産業新聞（日経テレコン21）11面、4/2 日刊工業新聞 18面、3/26 日経産業新聞（日経テレコン21）11面、3/15 東京新聞 2面、電気新聞 4面、化学工業日報 4面、日刊工業新聞 30面〕	【荒川泰彦 研究室】
●飲食物での内部被曝 東大推定 東京都民は18マイクロシーベルト 発がんリスク10万人に1人以下 〔3/13 朝日新聞 38面、毎日新聞 29面、日本経済新聞 38面、東京新聞 2面、日経産業新聞（日経テレコン21）10面、3/12 産経新聞 2面、TBS NEWS i (net)、テレ朝 NEWS (net)、NHK NEWS WEB (net)、時事通信 (net)〕	【「水の知」(サントリー) 総括寄付講座】

掲載項目について【●】で始まる項目は記者会見、【・】で始まる項目は研究に関する掲載記事です。



4月18日
大学院学生ガイダンス・
歓迎懇親会





4月9日
ユニバーシティ広場にて
弥生会 花見





FRONTIER

都市再生をネットワークから考える

人間・社会系部門 講師 太田 浩史

2003年から9年にわたって国内外の180都市を訪れ、都市構造の再編がどのように都市再生に寄与するかを研究してきた。都市再生が必要とされている要因は、(1)郊外化・自動車交通を志向した近代都市計画への反動、(2)かつての工業地域・港湾地域の再利用など、産業転換による空間利用の変化、(3)人口の流動化を前提とした新しい市民社会の実現と、その象徴としての公共空間の再評価、(4)都市のコンパクト化、再生可能エネルギーの利用など都市スケールでのサステナビリティの必要性、(5)都市の文脈を踏まえた建築、リノベーションによる歴史建築の利活用など建築理論の変化、などが挙げられるが、これらのなかでも、特に(2)の空間利用の変化と(3)の公共空間の再評価に着目しながら研究を進めている。具体的には、バーミンガムやコペンハーゲンなどに見られる、歩行者空間ネットワークを骨格とした空間利用の転換プロセスのモデル化を、ネットワーク理論や待ち行列ネットワーク理論などを援用しながら行っている。

そもそも都市とネットワークとの関係は古い。グラフ論の源流はオイラーによるケーニヒスベルグの街についての分析に始まるものだし、ネットワークという言葉が普及させたのは19世紀前半の鉄道技術者や運河技術者、そして19世紀後半パリを大改造したオスマンである。パリ大改造ではネットワークのリンクにあたる街路と下水道の整備とともに、ノードとして駅やオペラ座などの整備が行われているが、このリンクとノードを同時に作るという手法は、特に最近見直されているものである。たとえば戦後の高速道路建設によって都市構造が寸断されたバーミンガムは、「活動のノードと歩行者のリンク」というコンセプトで都市空間のネットワーク化を20年間続けた結果、中心市街が大変な賑わいを見せるようになった。このプロセスをネットワークにおけるノードの重要性を示す「媒介中心性 Betweenness Centrality」という指標を使ってモデル化すると、高速道路の両側に配置されたプロジェクト群によって(図1)、新たな都市構造が中心市街に生まれつつある様を見ることができる(図2)。形状も

大きなループとなっており、街に回遊性が生まれつつあることも伺える。

都市再生は、その言葉の定義から考えても、既存の都市空間の全的な刷新ではなく、部分的な介入によって全体の活性化をはかる試みである。そう考えると、土地利用図や街区構成を俯瞰的に定める「マスタープラン」型の計画手法ではなく、ノードとリンクの開発によって部分から空間を活性化する「ネットワーク」型の手法は、開発の焦点を絞る一方で周辺部にはフレキシビリティを担保でき、開発も準備が整った敷地から順に進められるという点において高い実践性を備えている。この特性に注意しつつ、今後は賑わい(待ち・輻輳)を持つ建築や広場(ノード)の効果的な配置について研究を進めたいと考えている。



図1) バーミンガムの街路ネットワークにおける媒介中心性(1990年)と都市再生プロジェクトの位置関係

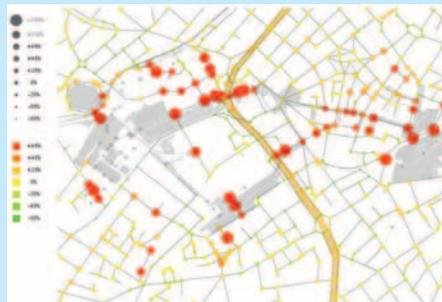


図2) 同地域における媒介中心性の増加度(1990年→2010年)。高速道路と直行する方向に媒介中心性の増加が見られる。

■編集後記■

本号は駒場リサーチキャンパス公開と同じ時期に皆様の目に触れることとなります。表紙はキャンパス公開を陰で支える防災センターの皆様、コンテンツは多くの記者会見とバラエティに富んだ活動報告、そして花よりブルーの写真で構成され、キャンパス公開にいらっしゃるお客様にも本号を通じて普段の生研を知ってもらえるのではないかと感じて

おります。毎年この時期は研究室紹介にヒネリを加えたいと考えるのですが、結局実行に移せないまま公開に突入してしまいます。今年はなるべく多くの研究室にお邪魔して、研究内容だけでなく展示方法も勉強したいと考えております。(清田 隆)

■広報委員会 生研ニュース部会
〒153-8505 東京都目黒区駒場4-6-1
東京大学生産技術研究所
☎(03)5452-6017 内線56017,56018
■編集スタッフ
小倉 賢・清田 隆・北澤 大輔
高宮 真・太田 浩史・三井 伸子
E-mail: iisnews@iis.u-tokyo.ac.jp
生研ホームページ
<http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/>